



コバトン

病虫害防除情報



令和2年8月24日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 水稻のカメムシ類について

2 情報内容

(1) 気象要因等について

8月20日に気象庁が発表した関東甲信地方の向こう1か月の天候の見通しは、気温は平年より高い、降水量は平年並か多い見込みです。

5月下旬以降に移植した水稻では、害虫の発生が増える時期です。害虫の発生が拡大してからでは防除は困難となりますので、早期防除を心掛けてください。

(2) 水稻の斑点米を発生させるカメムシ類について

本県では体長が比較的小型種のアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ。比較的大型種のホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等のカメムシを総称して斑点米カメムシ類といい、水稻の出穂後20日頃まで籾に吸汁害を与え品質低下を招きます。

また、本年8月の調査では、県内の水田でミナミアオカメムシ（比較的大型種）の発生が初確認されており、吸汁害の発生が懸念されます。

本害虫の多発生が認められた場合、速やかに薬剤防除を行いましょう。なお、農薬の散布は、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）を避けるなど、被害の軽減に努めてください。

水稻の出穂前後に畦畔や周辺の除草を行うと、本害虫を水田に追い込んでしまいます。出穂前2週間と出穂後2週間は除草を行わないようにしてください。

ミナミアオカメムシについては、特殊報を公表していますので、そちらも参考にしてください。

(特殊報 URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/tokusuho-r2-1.html>)



アカヒゲホソミドリカスミカメ
(体長5～6mm)



アカスジカスミカメ
(体長4.6～6mm)



ホソハリカメムシ
(体長 9 ~ 10 mm)



クモヘリカメムシ
(体長 15 ~ 17 mm)



ミナミアオカメムシ
(体長 12 ~ 16 mm)

表 稲のカメムシ類の防除薬剤例

薬剤名	IRAC コード	使用時期	使用回数
スミチオン乳剤	1 B	収穫 21 日前まで	2 回以内
キラップフロアブル	2 B	収穫 14 日前まで	2 回以内
ダントツ水溶剤	4 A	収穫 7 日前まで	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤	4 A	収穫 7 日前まで	3 回以内
アルバリン顆粒水溶剤			
エクシードフロアブル	4 C	収穫 7 日前まで	3 回以内
チェス水和剤	9 B	収穫 14 日前まで	2 回以内
エミリアフロアブル	未分類	収穫 7 日前まで	2 回以内

(使用基準は令和 2 年 8 月 24 日現在)

3 IRACコード及びFRACコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びFRAC（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中（令和2年5月1日～8月31日）

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661